

愛知県議会議員

— 自民党1期 —

神谷 和利



私たちの社会は、狩猟社会に始まり、農耕社会により国が形成されました。産業革命後は大量生産の工業社会へと発展、さらにインターネットの登場で情報社会へ到達しました。しかし我が国は人口減

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会経済労働委員会。同自民党愛知県第11選挙区支部長。元豊田市議会議員。豊田市少林寺拳法協会会長。ボイスカウト豊田地区副協議会長。

未来社会「ソサイエティ5.0」

少により、現在の社会を進化させる必要を迫られています。それが「超スマート社会」、農耕社会から数えて5番目であることから「ソサイエティ5.0」と呼ばれています。それは仮想空間と現実

実社会が高度に融合した、ロボット、人工知能、ビッグデータ、IoT教育現場での課題は「ICT支援員」不足

から10年、国は新たに「GIGAスクール構想」を打ち立てました。「ソサイエティ5.0」を生きる子供たちの未来を見据え、児童生徒向けの一人一台学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体

しかし課題は残りまです。愛知県は「授業にICTを活用して指導できる教員の割合」は全国47都道府県中43位「児童生徒のICT活用を指導することができ教員の割合」は39位と低い水準にあります。つまり児童生徒一人一台タブレット端末を整備しても、その使い方を教えられない教員が多い現状なのです。

発する「ウーブン・シティ」と呼ばれる試験都市は、まさにソサイエティ5.0を実証するものです。学校の電子黒板整備やデジタル教科書の導入を進めた「スクール・ニューディール構想」

的に整備する構想です。豊田市では令和2年度予算に、小・中・特別支援学校全校の校内通信ネットワーク整備と児童生徒一人一台タブレット端末を前倒しで整備するため55億円を計上しています。

いま教育の現場で必要なのは、教員や児童生徒のICT活用を援助する「ICT支援員」の拡充です。教師ではなくエンジニアが必要なのです。